



ANIMUSE

コンセプト

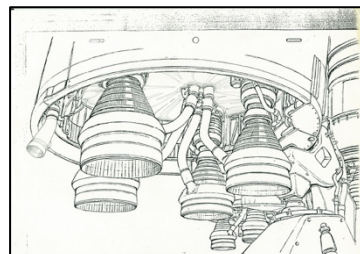
ARCHIVE+DIGITAL/HISTORY+CULTURE

世界的に高い評価を受けているアニメも、作品づくりのためのたくさんの貴重な資料や、ベテランスタッフの知見を継承する場がほとんどなく、貴重な中間素材も散逸しています。「ANIMUSE」ではアニメに関わる様々な資料やコンテンツ、クリエイターの思いに、いつでも、どこでも、誰でも出会うことができます。

構成

1. 「ANIME MUSEUM」 エリア

オンライン展覧会場。見慣れたウォークスルー型展示ではなく 3000 ピースを越える画像からモザイクアートを生成。これを入口としてバーチャル空間上に螺旋状に飛びまわるコンテンツからチョイスしたコンテンツから関連コンテンツへと興味を広げることができます。またリアル展示では難しいテキスト系コンテンツの探求を可能とし、深掘りできるバーチャル空間を目指します。



第一弾 『王立宇宙軍 オネアミスの翼』展 開催概要

開催期間：2022 年 8 月 10 日～12 月末（予定）

*期間中、Ver.0.3 スペシャルプロローグ～本展第一弾～第二弾の 3 回にわたり公開予定

展示内容：未公開資料イメージボード、絵コンテ、設定、原画、テスト映像等、約 1000 点

料 金：Ver.0.3 スペシャルプロローグは無料／本展は有料展示を予定

主 催：「王立宇宙軍 オネアミスの翼」展 Partners

協 力：株式会社バンダイナムコフィルムワークス、株式会社ガイナックス、
ATAC（特定非営利活動法人アニメ特撮アーカイブ機構）



2. 「ANIME HERITAGE」 エリア

歴史的価値のあるアナログ資料のデジタル化と、アニメのクリエイターたちが生み出してきた知恵と技術に敬意を払い、革新が生まれた背景と知恵や発想、その思いの本質を次代に伝えます。

●コンテンツ（予定）：

・渡辺 繁「エモーション魂」(再掲)

バンダイビジュアルのレーベル「EMOTION」を作った男がその軌跡と縁人を振り返るインタビューから、若き情熱溢れる映像ソフト産業の草創期のエピソードを再掲。

・「すわっち（諏訪道彦）のレジェンド声優の遺言聞きます（仮）」

アニメ『名探偵コナン』『シティーハンター』等の名プロデューサー諏訪道彦がインタビュアーとなりレジェンド声優の方から若い声優やアニメ関係者へ向けての遺言を受け賜るコーナー（月 1 回配信予定）。

3. オンラインショップ エリア

チケット購入、作品関連グッズの販売コーナー。

設定（バックボーン）

デジタルミュージアム「ANIMUSE」は、「架空の宇宙空間にあるミュージアム」という設定のもと、ウェブサイトが設計されています。以下は、そのコンセプトのバックボーンとして森田繁氏（スタジオぬえ）によって執筆されたテキストとなります。

●『ANIMUSE』コンセプト・ストーリー by 森田 繁（スタジオぬえ）

マルチプリシティ・イラ（Multiplicity Era）——多様性の時代。他者を尊重し、その価値観を受容する知性のアップデートの世紀である。

この時代、地球は破滅の瀬戸際にあった。

世界規模の環境破壊、国際情勢の混迷に直面した人びとは、文明の崩壊にともなう文化の喪失に警鐘を鳴らし、「C.H.O.I.C.e」（Conservated Heritage on Orbital Inventory of CulturE／軌道上文化遺産群——チョイス）を創設。極秘裏のうちにある計画を実行に移す。それは人類の文化——とくにアニメーション文化——をデジタルアーカイブ化し、地球の衛星軌道に建造に建造した宇宙ステーションに収蔵することであった。

そのステーションは、来るべき地上の荒廃とそれにとまなう文明の崩壊・人類の滅亡までもを視野に入れ、その文化遺産に触れることを望む人々やいつの日かこの星を訪れるかもしれない地球外知的生命、または遠い未来、人類の後継者となるかもしれない新たな存在たちにかつてこの星に存在し、人びとに楽しみと希望を与えたアニメーション文化の精華を伝え残す美術館であり、未来へのタイムカプセルである。

高度 2 万 223 キロメートルの衛星軌道上を、巨大な宇宙ステーションは一周 12 時間で周回する。

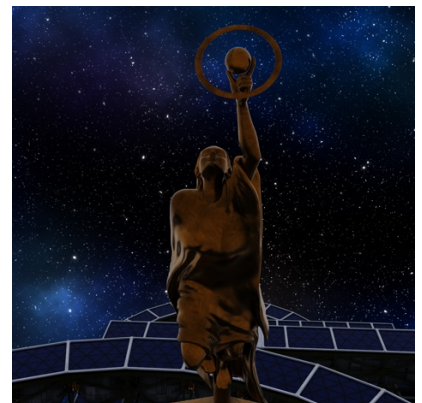
その運用は高度な自律人工知能によってなされ、いかなる地上勢力からの敵対的制御も受け付けることはなく、また必要十分な自己防衛能力を有している（その詳細は機密事項）。

天空を往くその輝きを目にするとき、地上の人びとはそれが人類が築きあげてきたかけがえのない文化の集積所であることを常に意識するだろう。

そのステーションの名は、〈ANIMUSE〉——。

デザイン

“架空の宇宙空間にあるミュージアム” のコンセプトのもと、前田真宏氏が手がけた外観イメージ



●デザイン・コンセプト (by 前田真宏)

今回のデザインに関してはまず初めに考えたのは『王立』の世界観に沿った未来、衛星軌道上に建設された宇宙飛行士を顕彰するモニュメント兼ミュージアムであるということでした。

展示の物量がどのぐらいになるのか見当もつかないので躯体はモジュール式とし拡張性を持たせよう、と言うのは最初から決めていました。ISS もミュールもそうですし。

内部空間は一般的な美術館ならば天地があり天井の高さ、空間の広さをゆったり取って、、と行きたいところですが限りある空気の量、その循環、温度管理を考えるとあまり広い空間は不自然かな、などと考え直径12m のニッケル合金、断熱材、アルミハニカム積層材で出来た球体モジュールの中に難燃パネルを立方体に組んだ空間を作り、これを回廊状に組み立てて「ワンフロア」としてみました。壁面と床の区別なく自由にレイアウトでき、お客さんは無重量下で浮遊しながら自由に見て歩ける、、

展示内容によってフロアを分けた方が良くかとも思い積み重ねて階層を作り縦シャフトで繋ぐ、、同じ規格のものを積み重ねただけ、の方が『王立』っぽいかな、、と思ったのですが流石に単調なので回廊の形を円形と方形に分けてズラしてリズムを作りました。

ドッキングポートを縦に並べてぐるりとアンテナフレームで囲んで「エントランス」としてみました。王家の紋章と王直筆の扁額がお出迎えです。

最上階の天辺には飛行士達を導く「スピードの女神像」が天を指しています。

スタッフ

館長：植田益朗

企画プロデューサー：渡辺 繁

バックボーン制作：森田 繁（スタジオぬえ）

外観デザイン：前田真宏（株式会社カラー）

本資料に関するお問い合わせ：株式会社スカイフォール <https://skyfall.me/contact.html>

